

## 職員のみなさんへ一言メッセージ（第84回）

あちこちから花便りが届くようになり、花冷えはしますが、過ごしやすい日々となりました。

もうすぐ、新年度です。新年度に当たり、私が考えている事業については「第2次中期経営計画」「平成25年度事業計画」に詳述していますので、今一度、確り目を通しておいてください。今日は、みなさんに新しい気持ちで業務に精励して頂くために、どんな気持ちで仕事に取り組むべきかを書かせて頂きます。

ご承知のとおり、真和館を何としてでも、他の施設に負けない、抜きんでた出た施設にしたいというのが、施設開設以来今日まで、私の一貫した変わらぬ願いであり、職員のみなさんも同じ気持ちをお持ちだと思います。

ところで、その願いに立ち向かうにはどうすれば良いのでしょうか。まず、職員が優秀でなければ、良い施設にはなりません。しかし、この点に関しては、一人ひとりの職員が真面目であることは確かではありますが、能力という点から見た場合は、現状では他の施設に秀でているとは思えません。

そうした中で、第三者評価で、a評価45、b評価7、c評価1という思わぬ高評価を頂くことができました。また、多分、真和館ほど様々な工夫した取り組みをしている施設も、そんなにはいと思われず。

しかし、歴史が浅い分、取り組まねばならない居宅生活訓練事業等は、未だ、取り組んでいませんし、さらに、私たちが気付かず取り組んでいない部分もあるのではないかとこの気もしています。

それでは、一人ひとりの職員の能力が抜きんでいない中で、どうすれば抜きん出た施設を創れるのか。それはスポーツと同じく、チームワークの力以外には有りません。そのためには、施設の価値観（考え方）や方針を良く理解し、目標に向け、みんなで真摯に努力することです。恐らく、大部分の職員のみなさんは、なんとなく体で、このことを理解されておられるので、愚痴も言わず、献身的な努力をすることが出来ているのだと思われず。

奇しくも、真和館の平成25年度事業計画のメインテーマは、「創意と工夫」による『入所者サービスの創造』であります。私ども凡人が「創意と工夫」をするということは、大変難しいことでもあります。それでは、どうすれば良いのか。その方法は、強い思いや執念を持ち、ヒラメキを得ることだと思います。

稲盛和夫さんの言葉のとおり、懸命に誰にも負けない努力をする人に、神は「知恵の蔵」から、一筋の光明を授けてくれるはずで。

単なる努力ではなく、工夫された努力を執念を持ってやる。すなわち、真摯さ、これこそが、人が仕事をする上で一番大事な秘訣かもしれません。職員のみなさんのさらなる一致団結した力で、真和館を抜きん出た施設にしましょう。

平成25年3月25日 真和館施設長 藤本和彦